

広報

環境カウンセラーちば

第65号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省により認定された環境に関する専門家です。
地球温暖化対策、廃棄物対策、環境教育・環境学習、環境経営など、お気軽にご相談下さい。

〔巻頭言〕

新体制の発足にあたり

理事長 井 町 臣 男

5月24日に開催した通常総会の後の臨時理事会において理事の皆様から推挙され、このたび理事長に就任いたしました井町臣男です。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年4月、多くの方々のご尽力によって25周年記念誌「25年のあゆみ」を発行することができました。この輝かしい歴史を次の節目である2028年の「30周年」に繋げてゆくのが私たち現会員の責務です。64名の会員の皆様と連携して持続性のある活動を進めてゆく所存です。これには共に歩む力が欠かせません。ご協力をお願いいたします。



EC千葉における現在の活動を振り返りますと、① EMS支援センターによるエコアクション21、ISO14001および9001の啓発普及活動、② 環境学習センターによる学校・地方自治体等の講習会への講師派遣、相互研修「みんなのひろば」の開催、自然観察会の実施、③ 地球温暖化対策センターによる地球温暖化に関する啓発活動、中小企業の省エネルギー診断、④ 廃棄物対策センターによる食品ロス削減運動、廃棄物のリサイクル・削減啓発活動、⑤ 水環境対策センターによる「浄化槽啓発講習会」・「水環境体験教室」の開催、⑥ うちエコ診断実施機関EC千葉ネットによる家庭向け「うちエコ診断」、⑦ 事業部による特別講演会の開催や各地域の環境フェアへの出展、施設見学会の実施、など「25年のあゆみ」から多数の活動実績が読み取れます。これらの活動は、今後もその時点での社会情勢やニーズ対応して継続実施し、さらなる充実・発展を図ってまいります。

新体制の発足にあたり新たに取り組みたいことが3点あります。その1つは、「ウェルビーイング（Well-being）」に配慮した「生活環境グループ」の創設です。これまでのEC千葉の活動は「自然環境」や「社会環境」に関連したものでしたが、新たな「生活環境グループ」は、私達人間を取り巻く身近な環境に視点をあて、日常生活における健康や食の問題、子どもや高齢者の居場所作り、生活の安心安全などをテーマとして、人と生活に直結する環境の問題に向き合うセンターを目指します。若い世代や幅広い層にも魅力あるセンターの一つにしていければ、新たな層の参画で会員増にも繋がっていきます。

2つ目は、会員増強プロジェクトを立ち上げ、一定期間を設けて勧誘活動をする。たとえば、来場者と接点がある「エコメッセちば2025」のイベント参加時や企業環境セミナー・特別講演会など多様な方々が参加する会場、地方自治体が企画する環境展やパネル展などの活用です。

3つ目は、情報部が中心になって、広報部、事業部、総務部および事務局が連携し、最新のITテクノロジーを活用した会員間の情報共有化のシステムをつくっていきます。

これまでの諸々の活動に、これらの新たな3点の取組を統括して、EC千葉の活動の柱の一つとして『人と人を繋ぐ』活動を軌道に乗せてゆきたいと考えます。

SDGsの目標達成年度2030年まで残り5年となりました。私たちの一つ一つの小さな活動でも「2050年カーボンニュートラル」に向けた再生可能エネルギーの導入拡大や省エネ推進に貢献できるものと考えます。そして、一人でも多くの会員の皆様が各部・各センターの活動に参画し協働することでより大きな力に拡大していきます。

簡単ではありますが、理事長就任の挨拶とさせていただきます。今後とも皆様のご協力をお願い致します。

第23回通常総会および総会特別講演会の開催

第23回通常総会および総会特別講演(環境セミナー)を2025年5月24日(土)に千葉商工会議所会議室(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館13階)において開催しました。

今回は、新型コロナウイルスの感染が終息したことで、会議室における対面会議のみを行いました。総会に先立ち総会特別講演会をEC千葉会員以外の方にも公開して環境公開講座として実施しました。

I. 総会特別講演会 (2025年5月24日(土)13:30~15:15)

演 題: 「シミュレーションモデルで地球環境の過去、現在、未来を見通す」

講 師: 河宮未知生 (国研)海洋研究開発機構(JAMSTEC)地球環境部門

環境変動予測研究センター センター長

/東北大学 変動海洋エコシステム高等研究所 教授

参加者: EC 千葉会員 25名、一般 30名 (合計 55 名)

II. 第23回通常総会 (2025年5月24日(日)15:30~16:30)

(1) 出席者: 正会員総数63名のうち、出席53名(会場出席者24名、委任状提出者29名)。

(会員総数の2分の1以上が出席し、定款27条により総会は成立。)

(2) 審議議案(本総会に提案された議案は次の4議案)

第1号議案 2024年度事業報告ならびに決算報告

第2号議案 2024年度監査報告

第3号議案 2025年度事業計画案ならびに収支予算案

第4号議案 役員の選任

(3) 議案の審議および議決の結果

吉田理事長が議長となり、書記に井町臣男、服部達雄、議事録署名人に捧一夫、橋本正を選任し、上記4議案を1議案ずつ審議した。

各議案とも質問あるいは意見・異議の発言がなかったので、議長は第1号議案、第2号議案、第3号議案および第4号議案のそれぞれの審議ごとに議決を求め、4議案とも全員賛成で原案通り承認された。

(4) 役員の就任

第4号議案で役員に選任された役員候補者全員がその就任を承諾し、理事あるいは監事に就任した。

(任期は次々回・2027年通常総会において次の役員が選出されるまでのおよそ2年間)

[理事] 阿部 勲夫(重任)、生野 宏(重任)、井町 臣男(重任)、渦端 尊史(重任)、河井 恵子(重任)、小林 亨(重任)、捧 一夫(重任)、佐藤 ミヤ子(重任)、中嶋 滋(重任)、橋本 正(重任)、服部 達雄(重任)、山畑 祐哉(重任)、吉田 昌弘(重任)、香取 仁義(新任)、佐藤 秀樹(新任)、間 純一(新任) (以上16名)

[監事] 有馬富穂、國廣 隆紀(新任) (以上2名)

(5) 役職の任命

この役員改選を受けて、5月24日に通常総会に続いて臨時理事会を開催し、定款に従い理事長に井町臣男理事、副理事長に山畑祐哉理事、河井恵子理事、生野宏理事の3名が互選された。

次いで運営細則に定める各役職を選任し、理事長から任命された。

さらに、定款に定める顧問に土田茂通氏、戸村泰氏、荒野喆也氏が、アドバイザーに倉田智子氏、野口久氏、青木誠氏、濱中道人氏が推薦され、理事長から委嘱することが承認された。

理事長	井町 臣男	副理事長	山畑 裕哉、河井 恵子、生野 宏		
事務局長	香取 仁義	総務部長	河井 恵子	EMS 支援センター長	橋本 正
広報部長 (兼)情報部長	山畑 祐哉	事業部長	間 純一	地球温暖化対策センター長	生野 宏
		ECU 担当	吉田 昌弘	環境学習センター長	捧 一夫
うちエコ診断実施機関責任者			吉田 昌弘	水環境対策センター長	井町 臣男

[新任部長・センター長の就任挨拶]

生 野 宏 副理事長・地球温暖化対策センター長

副理事長に任命されました生野宏です。井町理事長をサポートして EC 千葉の活動を手助けすることが出来ればと思っています。

地球温暖化対策センターでは、中小企業等の省エネルギー診断を実施すべく、当面、千葉県の実務用設備等脱炭素化促進事業補助金に係る省エネルギー診断パートナー制度におけるパートナー機関としての登録を目指しています。

また、以下の活動を通して地球温暖化防止に貢献していきたいと思っています。

- 1) 環境イベント等での啓発活動
- 2) 家庭での省エネ診断への協力
- 3) 外部の研修会・講座等への講師派遣活動
- 4) 環境省・千葉県・自治体・NPO 団体等への協力

香 取 仁 義 事務局長

この度、事務局長に就くことになりました香取仁義です。前任者から事務局長の業務内容の説明を受け、改めてその量の多さ、質の高さに驚いております。毎月のルーチンワーク以外に情報の収集・発信、各種申請等、全てが初めてのことばかりです。加えて、私は「左下肢の足関節の機能の全廃」により身体障害5級の認定を受けておりますので、行動に支障をきたすことも予想されます。

多くの困難があるかと思いますが会員の皆様方のご指導、ご協力をいただき一つずつ経験し、慣れて行きたいと思います。EC 千葉の運営の要としての立場を自覚し一意専心臨んで参ります。

よろしくお願いいたします。

間 純 一 事業部長

今年度から事業部長に任じられた間純一です。最先端 IT をエンジンに、従来からの活動の継続と新事業に取り組む所存です。新方針で人間環境が加わり、新たなテーマ、新たな若き人材を加え、DX から対外 GX（グリーントランスフォーメーション）へ臨みたく存じます。

私の専門は事業部門の業務用建物の省エネです。ノージャンルでの行動中に協議会の課題が見えました。IT 化、DX です。これを打開するにはインターネットを活用したネットワークでしょう。WEB 技術を多用すれば遠隔地とも緊密にコミュニケーションが図れ、濃密な NPO 活動ができると夢想します。幸運にも巨大 IT 企業から支援システムを受ける機会を得て、これを積極的に活用することで実現させる可能性が生まれました。当面、この推進を図ります。

橋 本 正 EMS 支援センター長

山畑前センター長の後を継いで EMS 支援センター長を拝命した橋本正です。

EMS 支援センターは、SDGS や環境経営等に取り組む千葉県の企業や組織に対して実際的な支援を行うことを目的として、EA21 普及セミナー、企業環境セミナー、ISO14001, 9001 内部監査員講習、等負荷のかかる重要な業務を行っています。非力な身で大任を受けることは身の引き締まる思いですが、副センター長さんの力添えで乗り切って行きます。

この EMS 支援センターには、環境審査員等の力のある方がおられますが、更に多くの方に加わっていただいて発展させていきたい。

「行政、事業者、一般市民に対して貢献する EC 千葉」を最終的な使命として取り組んで行きたいと考えますので、皆様のお力を借りて EC 千葉の発展に努力して行く所存です。何卒宜しくお願い致します。

[新設グループ紹介]

新設「生活環境グループ」について

1. グループ新設の背景と目的

1948 年発効の世界保健機関（WHO）憲章で「ウェルビーイング」の言葉が初めて使われ、日本においても、2024 年 5 月に閣議決定された第六次環境基本計画（環境省）に「ウェルビーイング」が取り込まれている。

現在の EC 千葉組織は、自然環境や社会環境を対象とした環境保全活動をベースに構成されている。そこで、私達人間を取り巻く身近な環境に視点をあて、持続性のあるウェルビーイングを目指したセクターを立ち上げる。

身近な生活環境を対象とした活動は、EC 千葉会員の新たな活動の場となり、若い世代や幅広い層にも魅力あるセンターの一つにしていければ、新たな層の参画で会員増にも繋がっていく。

2. 取組むテーマ

①生活の安心・安全、②健康と食、③子どもや高齢者の居場所、④地域の生活環境問題への対応

生活環境の基本は、健康で食に不安もなく、安心・安全に暮らせることです。災害リスクが高まる今、非常時の備え、外出先での避難コース、風呂敷の有効活用、健康体操、身近なウォーキング（散歩）コース、健康食とは何か？、子ども食堂の課題と対策、高齢者が安らぎのある居場所づくり、SDGs クイズ大会、空き地の雑草対策やポイ捨て対策ほか、身近な環境に関連したテーマと課題をメンバーで掘り起こし、その解析と解決に取り組む。

3. 構成メンバー

コアメンバーとして理事長・副理事長・各部長・各センター長の 10 名からスタートし、会員の皆様にグループ登録者を募ります。多くの方々の参加をお願いします。

4. 活動範囲と方法

千葉県内を活動地域とする。グループ活動やメンバー間の情報交換は千葉市民活動支援センターの会議室やオンライン会議を活用する。

活動への参加は強制ではなく、興味のある活動にそれぞれ自由に参加できることとする。

活動情報は、グループメンバーに限定せず、会員全員が共有できるようにする。また、ホームページに専用ポータルサイトを開設し、外部への情報発信にも積極的に取り組む。

5. 大学やNPO 法人との連携・協働

千葉大学・千葉工業大学・千葉商科大学・東邦大学・江戸川大学など、主に千葉県内にキャンパスがある大学のほか、人間環境に取り組んでいる NPO 法人や地方自治体との連携・協働を模索する。

（記）理事長・井町臣男

[解説]

「ウェルビーイングに関する国等の動き」

「ウェルビーイング」とは、身体的・精神的・社会的に良い状態を将来にわたって、多様な個人と個人を取り巻く地域・社会が感じられる持続的・包括的な概念とされ、国・地方の政策や個人・団体の活動のガイドラインとして採用されつつあります。

日本政府は、内閣府に関係省庁連絡会議を設置し、関係省庁における基本計画や政策運営に活用することと横断的に取り組んでおります。

千葉県においても既にいくつかの取り組みが行われており、今後私たちのまわりで「ウェルビーイング」を標榜する活動に身近に接する機会が増えてくるものと予想されます。

私たち EC 千葉においても、上記のとおり新たな特別活動グループを設置し、「ウェルビーイング」を目指す活動に取り組んでゆくことにしました。[2025 年 7 月 6 日理事会決定]

また、次の講演会を開催し、「ウェルビーイング」についての実践的学習を開始しました。

環境問題講演会「ウェルビーイングを考えてみましょう」

日時：2025 年 6 月 22 日（日）13:30～15:30

会場：西白井複合センター視聴覚室

主催：西白井複合センター、環境カウンセラー千葉県協議会 後援：白井市

演題：「国連子どもの権利条約」に根ざした地域福祉とウェルビーイングの追求

講師：川名はつ子先生 早稲田大学人間科学学術院元教授

（一社）ピノッキオ代表&早稲田里親研究会顧問

開催案内

経営に役立つ「気候変動への配慮」を目指して！

エコアクション21普及セミナー

開催日時：2025年8月27日(水)13:00～17:00（開場：12:30）

会場：千葉商工会議所 14階 第2ホール

【参加費：無料】

主催：千葉県環境財団、千葉商工会議所、環境カウンセラー千葉県協議会

＜プログラム＞ 1. 基調講演 「中小企業のカーボンニュートラルに向けた取組の現状と課題」

上林 裕介氏（日本商工会議所 産業政策第二部 主任調査役）

2. 事例紹介（エコアクション21の取組みと成果）

(1) 株式会社UACJ 金属加工 生産本部 成田工場 工場長 鬼澤 義弘氏

生産本部 成田工場 業務グループ長 原澤 勝彦氏

(2) 株式会社ダスティ 経理・人事部 主任 山崎 大輝氏

3. 認証・登録の手続きとガイドラインのポイント

橋本 正氏（EA21 審査員、NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会理事）

☆講演終了後に「無料相談会」を行います(事前予約)。

投稿記事

「乗り遅れるな！中小企業での環境経営」

小林 亨 [EC千葉EMS支援副センター長、ISO 9001・14001 主任審査員]

環境問題が顕在化する中、企業が社会に果たす責任として、環境経営が注目されています。また、最近ではCSRやSDGsの観点からも、環境を意識した経営を行う企業が増えています。日本貿易振興機構ジェトロの調査では、既に環境経営に取り組んでいる中小企業は38.5%、今後取り組む予定は30.6%であり、年々増えています。さらに、証券取引では環境に関する情報開示の義務化が増えており、非上場企業に対しても、環境に関する情報開示を求める機会が増えています。

環境経営では、環境問題に取り組みながら企業価値を向上させることが重要です。また、資源・エネルギー消費を抑えたコスト削減策だけでなく、グリーン調達や環境配慮の製品・サービスを提供する等、サステナブルな経営を促進する脱炭素活動も重要です。また、中小企業が環境経営をするメリットとして以下が考えられます。

- ① 大手企業は、サプライヤーに環境指標を報告してもらい、自社の環境評価に繋げる事例が増えています。また、今後も環境活動を既に実施している企業との連携強化も予想されており、早期に対策を図ることが必要です。
- ② NHKでの調査では、就職先を決めた理由として、65.2%の学生が「とても影響した」「やや影響した」と回答しています。また、就職情報サイトでの調査でも、就職先を決めた理由で最も高いものは「社会貢献度が高い」の30%でした。学生は社会貢献の意識が高く、環境経営は人材確保でも重要な課題です。
- ③ 脱炭素等は消費者にも関心があり、より低炭素な製品を選ぶ傾向は強くなっています。低炭素な製品開発を続けることで、競合他社に競り勝つ機会は多いに生まれます。
- ④ 金融機関が融資に際して、融資先企業の環境活動を評価し、金利を考慮する環境格付融資は、多くの銀行が対応しており、環境省も利子補給事業で促進を支援しています。また、投資家が投資先を非財務情報から判断する考え方のESG投資も広がりつつあります。
- ⑤ 環境経営のサポートとして認証制度も有効活用できます。認証取得で対外的に環境経営を示せることができ、環境を意識する消費者は、製品・サービスを選ぶ際の判断要素となります。

環境経営は、社会的責任を果たすだけでなく、企業の持続的成長と競争力強化につながる重要な経営戦略です。新たなビジネスチャンスを生み出し、CSRの有効手段等、企業の成長促進のために、環境経営を考えましょう。

出展報告

「いちかわ環境フェア 2025」

事業部、廃棄物対策センター

2025 年 6 月 7 日(土)、ニッケコルトンプラザにおいて「いちかわ環境フェア 2025」が開催され、昨年に続いて今年も EC 千葉から「資源とごみの分別ルールの確認」をテーマとして出展しました。

市川市では家庭から排出される廃棄物は、次の 12 種類に区分され、その各々の排出ルールは市で発行している「資源物とごみの分別ガイドブック」に細かく示されています。

- ① 燃やすごみ、② 燃やさないごみ、③ 有害ごみ、④ 小型充電式電池類、
- ⑤ プラスチック製容器包装類、⑥ 紙類、⑦ 布類、⑧ ビン、⑨ カン、
- ⑩ 剪定枝、⑪ 大型ごみ、⑫ 市では受入不可のもの

今回の出展で取り上げた廃棄物は、「プラスチック製容器包装類」と「紙類」です。

プラスチック廃棄物は、容器包装類とそれ以外に区分され、前者は一括収集され、外部業者の下で PET とその他に分別されています。また、後者は「燃やすごみ」として扱われています。

紙類は、容器包装類としての区分はなく、再生可能なものが収集されています。(例えば、牛乳パック、新聞紙、封筒、パンフレット、雑誌等)。再生に障害のあるものは、「燃やすごみ」として扱われています。

今回は、プラスチック材、紙材の廃棄物を各々 10 個ずつ並べて、それらが市川市のルール通りに分別・排出されているかをクイズ形式で来場者に答えてもらいました。

1、「プラスチック製容器包装類」のクイズ解答結果

- (1) 市川市では「容器包装リサイクル法」に則り排出ルールを定めているが、それを理解している来場者はわずかだった。
- (2) 中身に商品が入っている容器が対象であることを知ってもらった。
- (3) 容器の汚れや付着物を気にする人が多かったので汚れ落としの基準とすすぎ方の工夫を説明した。
- (4) 市での一括収集の前に市民自身での細分別を提案する声もあった。

2、「紙類」のクイズ解答結果

- (1) 牛乳パック等の防水処理はラミネート加工であるため再生可能であることを説明した。
- (2) カップ等の防水処理はコーティング加工であるため再生には障害があることを説明した。
- (3) 雑紙として出せない(再生不可)ものの理由を説明した。
- (4) 「紙類」の排出用の指定袋がないために、決められた出し方を確認した。



今回は開催本部主催の「クイズラリー」にも参加したので昨年にも増して来場者数が伸び、より多くの方々に廃棄物の排出ルールに関しての認識を新たにいただけたと思います。来年も同じテーマですが扱う品目を変えて臨みます。

出展報告

「第 28 回ふなばし環境フェア」

事業部、水環境対策センター

2025 年 6 月 14 日(土)10 時～15 時、ふなばし三番瀬海浜公園・環境学習館において開催された「第 28 回ふなばし環境フェア」に今年も参加した。当日終了ごろ小雨がぱらついてきたが、開催中は曇り空で天候に恵まれ、屋内外展示も無事にできた。

今年の開催テーマは、“サステナブルな船橋へ！～行動しよう！身近なところから～”。「ふなばし環境フェア」の開催目的は、“市民・事業者及び行政それぞれが、環境意識を高め、健全で恵み豊かな環境の実現を目指すことを目的とし、環境フェアを開催する。”である。

実行委員会事務局の出展結果報告によると、主催は船橋市環境フェア実行委員会の 25 団体で、その内訳は市民団体 9 団体、事業者 7 団体、学校 2 団体、行政 7 団体。当日の出展等は、実行委員会 25 団体、当日出展団体 29 団体、ボランティア 22 名であった。来場者数は約 3,140 人（昨年度約 3,000 人）と昨年並であった。

EC 千葉のブースでは“「エコ体験」地球温暖化と生活”と手書で工夫したパネルを展示するとともに、来場者に風船かビニール袋を膨らませてもらい、吐く息に含まれる二酸化炭素濃度を測定した。この体験者は 33 名で、その内訳は、大人：13 名、大学生：4 名、中学生：1 名、小学生：13 名、幼児：2 名であった。

来場者の子供から大人まで 47 名（昨年 55 名）の方々と一緒に地球温暖化の現状や課題などについて考えた。

これに加え、今年は新たな企画として、吐く息の二酸化炭素濃度を測定した後に、クイズ 3 点に答えてもらった。



クイズ内容と回答結果（回答数:33 名）

クイズ 3 点	はい	いいえ
1. 吐く息は地球温暖化に影響すると思いますか？	25 名	8 名
2. 植物は二酸化炭素を吸収して酸素を出している！	30 名	3 名
3. 去年日本の平均気温は今までで最も高かった？	32 名	1 名

クイズ 2. および 3. への回答は、予想通りだったが、クイズ 1. は予想に反して、吐く息が影響すると思った人が多数いた。来場者には、「人の呼吸は生物的炭素循環であり大気中の CO₂ 濃度を極端に変化させることはない。産業活動に伴う化石燃料消費量の増加や森林減少による CO₂ 吸収量の減少等が影響している。」と説明し、パネルに掲示した、「緩和策」としての植林等による CO₂ 吸収量の増加、再生可能なエネルギーの普及促進、省エネルギーの促進、節水、および「適応策」としての防災や減災の強化、気候変動の悪影響を軽減する対策などの取組みについて、私たちはどう取り組むかを来場者と一緒に考えた。

当日、出展団体との情報交換を行なうとともに、環境活動に関心がある来場者や出展者に対し、EC 千葉への新規入会への誘いを行った。

（記）担当：井町臣男



新入会員自己紹介

安原 暉之（やすはら てるゆき）市原市

生まれは神戸ですが、55年前石油化学会社への就職を機に市原に来てそれ以来住み続けています。

当初プラスチックフィルムの技術サービス担当でしたが、後年ポリエチレンパイプの市場開発に携わっていた際、用途のうちに地中熱の採熱パイプがあり、再生可能エネルギーのひとつである「地中熱」を知るところとなりました。

退職後は地中熱利用促進協会です事務局のお手伝いをしていました。

よろしくお願いいたします。

受賞報告

第7回 環境カウンセラー環境保全活動表彰で

佐藤ミヤ子氏が「脱炭素社会貢献賞」を受賞しました。

令和6年度「第7回 環境カウンセラー環境保全活動表彰」において、うちエコ診断実施機関 EC 千葉ネット、環境学習センターおよび事業部等で活躍している佐藤ミヤ子氏が脱炭素社会貢献賞（市民部門）を受賞し、令和7年2月1日国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された表彰式にて、環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室長の黒部一隆殿より表彰状を授与されました。

【表彰理由】

環境カウンセラー登録とともに環境カウンセラー千葉県協議会に入会し、地球温暖化問題に取り組んでいる。特に、家庭での省エネルギー対策を進めるために千葉市と連携し、温暖化対策地域協議会で「うちエコ診断」に注力。コロナ禍にあってもオンライン診断を推進した。また、県協議会の副理事長や環境学習センター長として多年、環境保全活動リーダーの育成に努めるとともに、地方公共団体等の研修会講師や委員を務めている。

環境カウンセラー登録相談コーナー

「環境カウンセラー」は、環境省が実施する審査（論文と面接）を経て、認定・登録された環境に関する専門家です。

例年どおり本年も、登録申請の受付：7月1日～8月31日

EC 千葉では、環境カウンセラー登録に挑戦しようとお考えの方のために「登録相談コーナー」を開設しております。

環境カウンセラー制度の解説、登録申請書類の書き方、論文作成法、ボランティア活動経験の証明など、経験者が個別に相談させていただきます。下記にメールしてください。

（E-mail） ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp

EC 千葉会員の皆様からも知人・友人や取引先の方などへ紹介していただくようお願いします。

総務部からのお知らせ

2025年1月1日～6月30日の間に、次の方々から当協議会へご寄付いただきました。

中嶋 滋 様 （3件）
8,126 円

中村 仁 様 17,000 円

ありがとうございました。

広報 環境カウンセラーちば 第65号 （発行日 2025年7月10日）

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会（責任者：広報部長 山畑祐哉）
（編集担当：服部達雄）

事務局：〒273-0047 船橋市藤原 6-1-7

（E-mail） ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp

（URL） <https://ecchiba.sakura.ne.jp>